

「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝える」

中心聖句

ヨハネ第一 1 : 1-3

1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見えたもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、**1:2**——このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。——**1:3** 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

ヨハネ 20 : 30-31

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で
行なわれた。**20:31** しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。今日も、教会として集うのではなく、ユーチューブの動画配信というかたちで礼拝と説教をお届けします。私がキリストを信じるに至った証をいつか皆さんにお話すると数か月前に言いましたが、今日がその日です。本当なら、教会で皆さんの顔を直接見て、証をお分かちしたかったのですが、今日は皆さんから遠く離れた場所、奈良の自宅からお話します。

この2年半に皆さんにお届けした説教の中にも、私のこれまでの人生について少しお話はしました。とくに、子どものころに通っていたルーテル教会の日曜学校のことや、30歳のとき夏季宣教プログラムに参加するために初めて日本に来た時のことはお話しました。けれども、その間の救いへの道のりについてはまだお話していません。私が20歳だった1979年のしゅろの聖日、私は、招きに応じて前に進み出、キリストに人生をおささげしました。それから数日後の平日は受難週と呼ばれますが、その教会ではいくつかの伝道集会がありました。私もその集会に参加しました。そして、それらの伝道集会の締めくくりに受難日礼拝とイースター礼拝がありました。新生したクリスチャンとして生き始めた素晴らしい一週間だったと思います。

キリストの復活は、あらゆる意味で私がキリストを信じたいきさつにかかわっています。キリストの十字架と復活は、人類史上の大きな転機です。キリストが私たち人間の罪の罰を受け、そして墓からよみがえったのは、主が死を克服されたことを教え、私たちに永遠のいのちを与えるという約束を示すためです。懐疑論者は、この話が実話かどうかを疑います。私も、これが実際に起こったことかどうか考え、悩みました。最終的には、復活の目撃者たちの証言が私を納得させてくれました。そういうわけで、私は今日のメッセージの中心聖句として使徒ヨハネの記した聖句をふたつ選びました。では、読みましょう。

ヨハネ第一 1 : 1-3

1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見えたもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、1:2——このいのちが現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現わされた永遠のいのちです。——1:3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

今日のメッセージのタイトル「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝える」は、この個所から引用しました。

新約聖書の4つめの福音書であるヨハネの福音書で、ヨハネは自身が見聞きしたことをつづります。バプテスマのヨハネがイエスを「神の小羊」と宣言したところから、イエスのなされた奇跡や教え、そして、最初のイースターに自身が目撃した復活についてです。そして、彼は次のように記します。

ヨハネ 20 : 30-31

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

このふたつの個所から、いくつかの点に注目します。ヨハネと仲間の弟子たちは、イエスの公生涯の「初めから」そこにおいて、イエスがなされた多くの事柄や教えを見、手でさわり、聞きました。それらの事柄こそ、ヨハネやその他の新約聖書の著者たちが当時の人々に告げ知らせたことです。また、聖書のページで彼らの証を読む後世の私たちにも知らせているのです。2節には、「このいのちが現われ」とあります。注解者によると、この個所の「このいのち」とは、主イエスを指します。主イエスとは、受肉して人となられた神なるお方です。私たち人間の間で働きをなされ、永遠のいのちのメッセージを携えてこられた方です。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

使徒信条の冒頭部分をここで引用します。使徒信条とは、初代教会時代に、キリスト教信仰の本質的教義を要約するために作成された声明です。

「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、…」

私たちの信仰の本質的教義のひとつめは、神が天地を創造され、イエス・キリストが神のひとり子であり、イエスが聖霊によって処女マリヤから生まれたという内容です。最後の部分は、受肉、つまり御子なる神が人の姿になられたことについてです。4世紀の神学者でありニカイア公会議における英雄、聖アタナシウスによると、墮落した人類を贖うために、神ご自身が人

となり、人の姿となりました。それにより、主は私たちの肉を贖い、永遠のいのちを与えることができたのです。

では、改めてヨハネ第一 1:2 を見てみましょう。「このいのちが現われ、」つまり、イエスが現れたのです。そして、ヨハネや他の使徒たちはこのお方の人生の証人です。このお方をおして、私たちは、永遠のいのちの約束を得ています。

では次に、3 節を見ましょう。福音を告げ知らせる目的は何でしょう。その目的とは、「あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。」あなたがたも、とあります。福音は、初代の弟子たちのような人たちだけのものではなく、新来者にも開かれています。いつでも誰でも歓迎されています。福音は、ユダヤ人だけに限定されていません。ユダヤ人に加えて、「あらゆる国民、部族」の人々が、神の御国に迎え入れられます。ヨハネは、「私たちと交わりを持つようになるため」と目的を語っています。ヨハネや初代の伝道者たちとの交わり、そして、「御父および御子イエス・キリストとの交わり」です。私たちも、創造主なる神およびその御子とつながれるのです。

ヨハネ 17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

もう一度、ヨハネ 20:30-31 を見てみましょう。イエスは多くのしるしを行われましたが、ヨハネによって記録されているのはそのうちのいくつかだけです。ヨハネは、イエスが約束されたメシヤであると信じる信仰へ私たちを導くために必要なしるしだけを記録しています。「…また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」イエスがなされた奇跡をすべて知る必要はありません。イエスを信じて永遠のいのちを受けるのに必要なだけの奇跡は聖書の中に記されています。

次に、私の信仰の旅路についてお話したいと思います。私の母は、敬虔なクリスチャンで、毎週日曜日には教会に子どもたちを連れていきました。私たちをルーテル教会に連れていってくれたのは、そこが自分の教団だったからではありません。地域で評判の日曜学校があったからです。母は、子どもたちにキリスト教の基礎として最善のものを提供しようとしたのです。夏休みには、「バケーション・バイブル・スクール」と呼ばれる子ども向け夏季プログラムにも申し込みました。地元の大きな教会が主催しているプログラムでしたが、私が 8-9 歳のとき、母は私たちを違うプログラムへ参加させました。それは、ある家庭で開かれた約 1 か月のプログラムで、月曜日から金曜日までふたりの女性が教えていました。毎日、午前中にはひとりの女性が旧約聖書全体のあらすじについて話します。創世記から天地創造や人間の墮落、そしてヨナなどの預言書についてです。午後には、もうひとりの女性が新約聖書全体を教えてくれました。イエスと弟子たち、パウロ、そしてキリスト教が最初にどのように広まったか、そして黙示録では患難時代や白い御座のさばきについても教わりました。素晴らしい一夏でした。ルーテル教会の日曜学校に次ぐ、私のクリスチャン人生の偉大な二番目の基礎です。ですから私は今も、聖書とクリスチャン人生に関するしっかりとした基礎を幼いうちから子どもに提供することが大切だと信じています。

さて、私は 13 歳のとき、カリフォルニア州のサンディエゴからオレンジ郡に引っ越しました。最初は母が私たちを近所の長老派教会に連れていきました。けれども、数か月でその教会は合わないと思いました。同じ日曜日に、母は牧師の説教にがっかりし、私たち双子も日曜学校の先生にがっかりしました。その教会は正当なキリスト教の教理から離れてしまっていたのです。

その後、母に馴染み深い種類の教会を探し始め、私たちはペンテコステ派教会に通うようになりました。

通い始めたころは、そこはとても良いペンテコステ派の小さな教会でした。私たちは牧師も日曜学校の先生も気に入りました。けれども残念ながら、一年後には日曜学校の先生がその教会を離れました。そして、牧師も変わりました。牧師が変わると、いろいろと様子が変になっていきました。そこで初めて「異言で語る」人を見ましたが、私には慣れない光景でした。毎週、賛美のときに大きな声で異言を語る人がいました。とくに、前列に座っている高齢の婦人ふたりと、母と同年代の女性ひとは、ひときわ大きな声でした。牧師も、説教中に異言を話し始めるのです。私にはずいぶん無秩序に感じられて、本当にそれが神からのものかと訝しく思いました。その人たちは毎週、同じ子音を暗唱したように繰り返し、人間の高揚感や興奮を引き起こすもののように見えました。

私はティーンエイジャーでしたから、すべてに疑問を抱きました。キリスト教自体にも疑問を持ったし、地球が何十億年も前にできて、人間は単細胞生物から進化したと教える学校の教育にも疑問を持ちました。地球や人間の生命に関する真理とは何でしょう。

さて、私たち双子は大学に進学することになりました。カリフォルニア大学ロサンゼルス校、通称 UCLA にふたりとも進学が決まりました。ペンテコステ派教会から離れられるのがとてもうれしくて、大学に入学して2ヶ月は教会に行きませんでした。私は UCLA のマーチングバンドに所属し、一学期はほぼ毎週末アメフトの試合で演奏していたので、教会には行きませんでした。多くの学生がするようにパーティー三昧にはなりませんでした。それでも寮生活も楽しめたかったです。

一方、双子の兄弟は私とは違う道に進みました。彼は、私のように信仰のことで悩みませんでした。UCLA では、アルファ・ガンマ・オメガというクリスチャンの男子学生クラブに所属しました。クラブの掲げる聖句は、「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」というテモテ第二2:15のみことばです。そして、モットーは「永遠の兄弟」でした。彼らは、クリスチャンの弟子となるという召しを真摯に受け止め、各メンバーがクリスチャンとして成長できるように励まし合っていました。

大学の一学期が終わりに近づくころ、私はついに教会に行きました。双子の兄弟とクリスチャン学生クラブの仲間に加わり、車に乗せてもらってグレイス・コミュニティチャーチというところに行きました。そこは、ジョン・マッカーサー師が牧師の教会でした。私は圧倒されました。マッカーサー師は毎週日曜日にコリント人への手紙第一を一節ずつ説教していると聞かされました。コリント人への手紙第一の説教はもう2年も続いていて、それでもまだ3分の2ほどしか進んでいませんでした。そんなことは聞いたことがありませんでした。原語のギリシャ語や書簡が記された文化背景の説明を含む深く掘り下げた学びでした。

私の双子の兄弟は、当時の最善の英語訳は、ニューアメリカンスタンダードバイブルだと教わりました。それで、1977年のクリスマス、母はその訳の聖書を私たち兄弟3人にプレゼントしてくれました。私は、年間通読を翌年の1978年の目標にしました。実は、まだその時点ではキリスト教信仰について大きな疑問を抱いていました。どうすればこれが真理だと確信できるのだろう、進化論の証拠はどう説明するのか、といった疑問です。けれども、新しい聖書をもらったので、これは聖書を読破するよいチャンスだと思いました。

大学では、形質人類学の授業が必須でした。これは、人間の始まり、人類の進化に関する学問です。教科書の著者は、有名なSF作家アイザック・アシモフでした。教科書の冒頭部分を今も鮮明に覚えています。そこにはこうありました。「進化は今ではほぼ疑いの余地のない事実である。」この発言には問題があります。進化論は事実ではなく、仮説です。事実は観察をすることができます。「科学的過程」には、繰り返し観察できる実験結果が必要です。人類の進化が起こるのを観察することはできません。進化論は推測または憶測です。発掘された化石や現代見られる動植物を観察し、周囲の人間や類人猿、その他の動物を見て現代にいたるまでの期間に起こった可能性のあることを仮定または提案してできあがった仮説です。ですから、形質人類学の教科書の冒頭の文には拒否反応を示しました。

聖書通読をしているのと同時に進化論を教える大学の教科書を読まなければならなかったのは、おもしろい体験でした。私はある意味、どちらにも抵抗しました。出エジプトのときに起こったとされる奇跡は本当に起こったのだろうか、それとも後年モーセがこの書を書いているときにできた誇張表現なのだろうか。聖書の中、とくに四福音書にある矛盾と思われる箇所はどうか。そのような疑問が私を悩ませました。一方、進化論の教科書の内容に抵抗を感じたとき、聖書よりも進化論のほうに問題点を見つけやすいように感じました。

形質人類学の教授が正直な人だったのも幸いでした。彼は、人類出現以前の化石が発掘されたという主張には問題があることも認めました。そして、そのような主張をする人類学者は、長年かけて化石の発掘作業をしているので、これにかかった年月を正当化するために、自分たちの発掘したものの年代や重要性を誇張せざるを得ない、と言いました。この教授は、出版されている記事のいくつかが進化論的な正統性から逸脱していると不満も述べました。彼は進化論の支持者でしたが、発掘された一部の化石については先入観や軽率な報告があることを指摘する正直さがありました。

大学一年を終えた夏休み、私たち双子は、夏のアルバイトとして家の外壁全体のペンキ塗りを父から言いつけられました。双子の兄弟はジョン・マッカーサー師のメッセージテープを100本以上も誰かからもらっていました。それで、ペンキ塗りをする傍ら、私たちはカセットデッキと長い延長コードを用意して、箱いっぱいのメッセージテープを聞きました。私たちにとって思い出に残る夏でした。ペンキ塗りをしながら、素晴らしい神学の勉強ができました。これは、私のクリスチャン人生における偉大な三番目の基礎です。

その夏、私はマッカーサー師の「*The Charismatics* (カリスマ派の人々)」という本を読みました。これは、カリスマ運動とその欠点について師が初めて書いた本だったと思います。この本を読んで、異言で語ることにについてずいぶん安心しました。クリスチャンが異言で語ることは必須ではないとありました。これによって、私にとって大きなつまずきの石が取り除かれました。十代のころにペンテコステ派教会で見た偏った光景につまずいたのです。しかし同時に、師があまりにも反カリスマ的だったので、いくつかの点ではその本に共感できませんでした。例えば、異言の賜物は完全になくなったという主張には納得していません。

私たちは科学重視の世の中に生きていますから、何かを信じる前に客観的および具体的な証拠を求めます。大学生活も二年目に入り、私は聖書通読を続けました。私は懐疑的なほうです。聖書にも進化論の教科書にも抵抗していたと先ほど話したとおりです。そして、自分の目で確かめられない事柄すべてに対して懐疑的になりました。ある日、私は新聞の一面記事を疑っている自分に気づきました。当時のアメリカ大統領はジミー・カーター氏で、その日の一面には、「カーター大統領〇〇する」とありました。(〇〇の部分は何だったかは思い出せません。) その時、カーターという名の大統領が実在するのだろうかと思っていたのです。私は、大統領に会ったことはありませんし、首都のワシントンD.C.に行ったこともありません。本当にいる

とどうやってわかるのでしょうか。そのとき、自分は懐疑的傾向の度が過ぎることに気づきました。目の前に具体的な物証を並べるのをあきらめて、読んだ内容をある程度信頼しなければならぬときがあります。

ジョシュ・マクドウェルの著書「*Evidence That Demands a Verdict* (評決を要求する証拠)」(キリスト教信仰の弁証の概要を記した本)の中だったと思いますが、証拠や根拠を種類別に分類する重要な特徴があると知りました。科学的証拠とは、観察できる事実で、科学的実験によって繰り返せるものです。しかし、それでは証明できない真実がたくさんあります。例えば、昨日、先週、昨年に関わった出来事などです。そこで必要になるのが、歴史的証拠です。これは、一例を挙げるなら法廷で用いられるような種類の証拠です。裁判で事実を突き止めるには、目撃者を証人として呼び、見たことを証言してもらう必要があります。さまざまな証言を聞き、実際に何が起こったのかについて結論を出します。過去の出来事に関する報告の信憑性を判断するときに、この種の証拠に頼ります。例えば、キリストの生涯、死、そして、復活についてです。

ヨハネ 20 : 30-31 をもう一度読みましょう。

20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。**20:31** しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

新約聖書には、十分な歴史的証拠があります。イエスについて語られていることをイエスが本当に教え、行い、そして、イエスが死から復活したことを信じるに足る十分な証拠です。

イエスの復活に関するヨハネの証言は次のとおりです。

ヨハネ 20 : 1-8

20:1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。**20:2** それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません。」**20:3** そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓のほうへ行った。**20:4** ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロよりも速かったので、先に墓に着いた。**20:5** そして、からだをかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。**20:6** シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、**20:7** イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。**20:8** そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいて来た。そして、見て、信じた。

ヨハネは、「見て、信じた」のです。まもなく、イエスはマグダラのマリヤの前にも現れました。それから、弟子たちにも姿を現されました。しかし、トマスはそのときそこにいませんでした。トマスは他の弟子たちから聞いたことを疑いましたが、一週間後、イエスにお会いすることができました。

ヨハネ 20 : 28-29

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」 20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

「…見ずに信じる者は幸いです。」これは、私たちの立場です。私たちはキリストの復活を自分の目で見ていませんが、ただ信じるなら幸いな者と呼ばれるのです。

ジョシュ・マクドウェルが「*Evidence That Demands a Verdict* (評決を要求する証拠)」で用いた論点のひとつは、次のとおりです。イエス・キリストは、1) 主、2) 嘘つき、3) 頭のおかしな人のどれかに違いない。1) の主であるとは、イエスのことばどおり、人類を救うために地上に来られた神の御子という意味です。2) の嘘つきとは、詐欺師です。しかし、嘘のために死ぬでしょうか。すべて嘘だとわかっているのに、死ぬまで嘘をつきとおすでしょうか。では、3) の頭のおかしな人でしょうか。精神的に不安定で、見当違いの言動をしたのでしょうか。妄想状態であれほど素晴らしい教えを施し、奇跡を起こしたとは考えにくいと思います。しかし、嘘つきや頭のおかしな人だったとしたら、その状態で死刑に処されたとしたらどうでしょう。イエスが本当に神の子ではなかったとしたら、死からよみがえることもなかったこととなります。それなのに、その後に使徒たちがしたことについてはどう考えればよいのでしょうか。伝承によるなら、ほとんどの使徒たちは後に、復活を宣べ伝えたことで命を落としています。彼らが嘘を守るために死ぬとは思えません。自分たちの告げ知らせていた事柄を心から信じていたはずで

福音書の終盤で、ヨハネはこのように記しています。ヨハネ 21 : 24 「これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。」彼のあかしが真実である、と言います。

新聞の一面記事を見てカーター大統領の存在を疑ったあの日、私は気づきました。自分の目で見ていない事柄にも一定程度の信頼を置かなければならない、他の人の目撃証言をある程度信頼しなくてはならないのです。キリストの使徒たちは、自分たちが宣べ伝えた福音のために苦しみを受けてきました。そして、そのために命さえ落としました。それなら、彼らの目撃証言に一定の信頼を置くべきです。使徒ヨハネは、自分の見聞きしたことを証言しました。私は、復活の目撃証言は十分信頼できると納得し、私自身もキリストとキリストが死から復活したことを信じられるようになりました。

それでも、まだもうひとつ考えなくてはならないことがありました。福音は、私たちが全員罪人で、自らの罪を悔い改めなくてはならないと語ります。

ローマ 3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

マタイ 3:2 と 4:17 で、まずバプテスマのヨハネが、そしてイエスが、罪人へのメッセージの要として次のように語りました。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

ルカ 24 : 46-47

24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、 24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。

大学時代、私は多くの学生たちのようにセックスやドラッグといったパーティー三昧の生活にははまりませんでした。けれども、自分が罪人で、心が汚れているという自覚はありました。そのうえ、世間でまかり通るひどい不正についてもわかってきました。この世はなんと悲惨なところでしょう。この罪と汚れにまみれたあわれな世に解決はあるのでしょうか。

聖書でとても印象的だったのが、私たちの出元についての教えです。私たちは初めのときに、神によって造られました。また、今の状況に置かれた理由についての教えもそうです。それは、アダムとエバの不従順が原因です。そして、その打開策についての教えです。キリストが十字架で私たちのためにいけにえとなってくださり、私たちは救い主としてこのお方を信じます。ついに、私はキリストを信じ、罪に背を向け、主に人生を捧げることができました。

当時、大学二年生だった私は、福音派の教会に喜んで集っていました。そこは、学生伝道のときに私に連絡をしてきてくれた教会です。1979年のしゅろの聖日、私はその教会にいました。そして、招きに応じて前に進み出、罪を告白し、イエスを心に受け入れました。今日のメッセージの冒頭でお話したとおり、キリストを受け入れた直後はしゅろの聖日とイースターの間となる受難週で、教会ではいくつもの集会がありました。新生したてのクリスチャンとしてそれらの集会に参加できたのは素晴らしい体験でした。その一週間に、私たちクリスチャンは人類史上もっとも大切な出来事を祝います。受難日は私たちに変わってイエスが十字架にかかって死なれたことを覚える日です。そして、イースターは、主が死から復活し、死を克服したと宣言され、永遠のいのちを私たちに約束されたことを祝います。

残りの大学生活、私は新たな喜びと期待をもって聖書を読みました。マッカーサー師の教会にまた行くようになり、朝拝にも夕拝にも出席し、教会所蔵のメッセージテープも毎週借りて、教えを存分に吸収しました。また、クリスチャン学生クラブのアルファ・ガンマ・オメガにも所属しました。夏休みには、サンディエゴの実家の大がかりな仕事をしましたが、もうテープは全部聞き尽くしてしまったので、今度はクリスチャンラジオ番組を聞くようになり、J・バーノン・マッギー、チャールズ・スウィンドル、チャック・スミスなど立派な説教者を知るようになりました。おかげで、キリスト教の教えを耳から入れる習慣が身に付きました。

4年ほど前、私は敬虔なクリスチャンの母という素晴らしい恵みについて考えるようになりました。母は、私たち子どもらを日曜学校に連れていき、夏には子ども向けのクリスチャンプログラムに参加させ、ボーイスカウトにも入れてくれました。そして、UCLAとジョン・マッカーサー師の教会や南カリフォルニアのすばらしい福音派教会と出会えた恵みにも感謝しました。若いときに築いた偉大な基礎について考えていると、妻の俊江から奈良の日本人教会の日曜学校の状況について聞かされました。なんとかしないとイケないと私が言うと、妻とふたりの教員がプログラムと指導法を再編成しました。すると、子どもたちが興味を持つようになり、参加人数も増えたそうです。それから、OICでもアリスティア牧師から時折説教するように依頼されるようになりました。それまでは、講壇から神のみことばを語るというのは恐れ多いと思

っていましたが、その時、若いときの恵みを思い返し、依頼を受けることにしました。私には、これまで見聞きし、学び、体験したことがたくさんあります。それを教会家族の皆さんにお伝えできると思いました。

今日のメッセージの最後に、使徒パウロのあかしをご紹介します。彼は、イエスが地上で働きをなされた時代からの弟子ではありません。しかし、イエスはダマスコへの途上で彼に出会ってくださり、劇的な方法でキリストの働きへとパウロを召されました。これが、そのパウロの言葉です。復活のキリストを目撃した多くの人たちの名も挙げています。

コリント第一 15 : 3-8

15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、**15:4** また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、**15:5** また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。**15:6** その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。**15:7** その後、キリストはヤコブに現れ、それから使徒たち全部に現れました。**15:8** そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現れてくださいました。

パウロはこのメッセージを受け取りました。そして、コリントのクリスチャンに届けたのです。私達も、福音のメッセージを先人から受け取りました。そして、私達も身近な人々にこのメッセージを届けましょう。キリストが私たちのために死なれ、葬られ（本当に死なれ）、復活されたというメッセージです。この事実は、その出会いによって人生が変えられた多くの人々によって目撃されました。